

入賞おめでとうございます

第 30 回 「かかしさん川柳」 入賞作品

お題 「新春雑詠」

応募件数 224 件 665 句

審査 全日本川柳協会
Nissen Kyou
梅崎 流青

(順不同)

金賞 5 句

ていねいに生きねばと噛むごまめかな 兵庫県 美濃敏子 様

評 平均寿命まであと幾年。一日を大切に丁寧に生きよう。ごまめの命を頂きながら。

父と見た山は変わらず初日の出 熊本県 中島 まさ子 様

評 あの山のあの稜線から少しずつ。父の背中で見た初日の出は今も鮮やかに。初日に届けこの拍手。

抜け殻は無いが新年脱皮する 島根県 日原 野兔 様

評 古い考えや風習はおさらばしよう、との新年。あの「青い山脈」での「古い上着よさようなら」を口ずさむ。

真っ新たな元気をもらう立ち話 大阪府 上田 陽子 様

評 偉い人の高尚な話や本からの刺激より隣りのお婆さんの暮らしの知恵が何より役立つ時も多々。

三ケ日一升壺がころがった 兵庫県 久保木 剛 様

評 三ケ日だけに許される朝酒、昼酒、そして夕酒。かくしてゴロンと転がる一升瓶。明日が怖い。

第 32 回 かかしさん川柳 募集中！ お題は「帽子」

- 応募期間 令和 2 年 5 月 1 日～6 月 10 日 当日消印有効
- 結果発表 2020 年「冬カタログ」(9 月発送予定)の紙面上、またはかかしさんのホームページにて
- 応募方法
ハガキに川柳(3 句まで)、郵便番号、ご住所、生年月日、年齢、お名前(ペンネーム希望者はペンネームも記入)をご記入の上、下記まで郵送下さい。
※また、ご意見やご趣味等もぜひお聞かせ下さい。
- 宛先 591-8025 大阪府堺市北区長曽根町 1607-1
かかしさんの JA 通信販売「川柳応募」係まで

審査 一般社団法人
全日本川柳協会

かかしさんのJA(農協)通信販売

第 30 回「かかしさん川柳」には多くの作品が寄せられました。「新春雑詠」に対する思いを託した心温まる作品をご応募いただきありがとうございます。今後も皆様のご参加お待ちしております。



かかしのシー坊

銀賞 25 句

句	都道府県	氏名・ペンネーム	評
隈取りの凧天空に見得を切る	三重県	倉田 勝敏 様	あの凧小癪にも歌舞伎役者か。青空を舞台に跳ね回る凧。
もう少し生きてみたいと初日の出	富山県	伊藤 紀子 様	あと何年生きるのだろうか。と思いながら拝んできた初日。きっと今年は良い事が。
青空に上がる凧なし過疎の里	和歌山県	小川 章 様	子らの歓声が消えて久しいふる里。道行く人もめったに。大都会東京へ東京へ。今も昔も。
屋根裏の鼠も過疎を寂しがる	奈良県	米澤 祐子 様	人間の話を読み聞きたのはいつの日か。かつては人との共存共栄だった、という鼠の嘆き。
初日記先ずは天気と気温書く	兵庫県	穴田 敏子 様	そうだ。暮らしに欠かせぬ天気と気温。去年は雪が降ったのに。進む温暖化に一抹の不安。
松取れて葉が一つ増えちゃった	岡山県	高月 しげ子 様	暴飲暴食のお正月。毎年こうだ。来年こそ。同じ誓いの松明けである。
食べ疲れ七草粥の知恵感謝	長野県	沓掛 正一 様	胃に優しいのはスズナ、スズシロなどの七草。正月明けの昔の知恵に驚く。今日は一日健康三昧。
湯けむりの中で賀状の礼をのべ	愛媛県	秀野 廣 様	初風呂は近くのスーパー銭湯へ。思いは同じか。まずは新年のあいさつと賀状のお礼を。
書き初めは墨たっぷりに「和」とするす	熊本県	長瀬狂介 様	やはり人と人との世。平和は何よりも。なごみ丸くおさまると意の「和」は人の世に欠かせぬ。
初空へ抱負の花火打ち上げる	富山県	おかのみつる 様	とにかく今年は有言実行。口に出して自分を追い込むことにする。わき目もふらず。
書き初めに義と書き続け腕上げた	長野県	北山たつみ 様	人間生きていく上で最も大切なことは「すじ道を立てること」の「義」。書にも生き方にも迷いなし。
新日記令和へつなぐ夢を織る	栃木県	荒井 つね子 様	どんな年になるのか令和二年。昭和は戦争の時代でもあった。令和は戦の無い時代を、とひたすら。
破魔矢もて石見神楽を舞う子かな	島根県	佐々木ミチ子 様	日本神話題材とした岩見神楽。破魔矢は大蛇に挑む武具の一つか。音曲に合わせ厳かなる舞。
今は白日に日に埋まる初暦	富山県	秀永 竹男 様	さあどんな一年にしよう。あれもこれもと。予定の多さはそれだけ充実の日々の表れ。
しもやけもあかぎれもない温暖化	奈良県	大和の雨蛙 様	温暖化というより過熱化で地球が壊れていくことをあかぎれの無いこの指が教えてくれる。
新年会今日の命に乾杯す	福井県	田中 伸子 様	一日いちにちを積み重ねて私たちは生きている。この一日、一瞬の命に改めて乾杯。
初空に合戦もなき凧(いかのぼり)	愛知県	近藤 圭介 様	合戦があるから存在感を増す凧(いかのぼり)。その相手も年ごとに退陣という現実。
子宝の写真を添えて賀状来る	滋賀県	浅野 典次 様	幸せのおすそわけ。これも時代の流れか。言葉をいくつ重ねてもいちまいの写真には勝てぬ。
身の丈の望みはぐくみ幕が開く	石川県	粹なマサ坊 様	多くは望まぬ。健康で三度の飯が食えれば。やがてそれも身の丈以上の願いになるのかも。
春まぶし令和五輪の世が明ける	滋賀県	前田 作蔵 様	春がこんなにまぶしいのは五輪の年明けだから。昭和五輪はこの日本国をぐっと前進させた。
鏡餅据えて小暗き床飾る	三重県	小宮 やす 様	いつもは何となく見過ごしてしまう床の間。正月、まるで鏡餅のためだけにあるような床の間。
発展のないこの里が好き人が好き	兵庫県	堀 美佐子 様	いつ来ても昔と変わらぬふる里。小川も森も吹き渡る風も。そして人情厚きこころも。
初春の炬燵談議の嫁探し	島根県	福場 てるを 様	昔、どこにも縁を取り持つ「でしゃばりオヨネ」というお婆さんがいた。年ごろはどこにという炬燵談議。
鐘の音に合わせてめくる新暦	兵庫県	田舎農人 様	新しい年を告げる鐘の音が一つふたつと。新年はどんな年にしようと思いをめくる胸はときめく。
はねつきの知らぬ世代がママになる	徳島県	安岡 悠子 様	はねつきもすごろくもそして独楽回しも知らぬ新世代。母子の生年月日を聞きたび遠くなる昭和。

※かかしさんのホームページでも発表しております。→ www.kakasi.com/